



幼保小中一貫教育プロジェクト 阿久比町中学生海外家庭生活体験事業

阿久比町では中学生海外家庭生活体験事業として、毎年、中学3年生を海外に派遣しています。23回目となる今回も、10人の生徒たちが9日間の海外家庭生活を体験してきました。参加した生徒たちは、あらかじめ研修テーマを設定し、現地での結果を報告書にまとめています。今回はその報告書を基に、日本とカナダの違いや彼らのカナダでの体験をお伝えします。

【3年1組 佐藤篤樹】

僕はカナダでホームステイをして、戸惑う場面が多くありました。食事の種類や量、品数の違いをはじめ、バスルームがトイレや洗面台と同じ部屋にあること、夜は暗くなるのが遅く、逆に朝は明るくなるのが遅いことなど、たくさんの違いがありました。これらの違いを実際に体験することができ、参加して良かったと心から思います。



【3年1組 遠藤凧紗】

初めての外国は驚きばかりでした。日本とは全く違うご飯や学校、家など、言い出したらきりがなくらいです。特に、洗濯とお風呂が毎日ではないことが衝撃的でした。今回の体験で、私は自分の視野が大きく広がったと思います。これからも、カナダや他の国についてもっと調べてみたいと思いました。

【3年1組 櫻井紗華】

ホームステイ先の夕食で食べる物は、日本とあまり変わりませんが、「食べる前に必ずお祈りをする」「全員が食べ終わるまでは席に着いている」というルールがありました。そのため、夕食を終えた後は、家族で会話や勉強、折り紙などをしてまったりと過ごすことができました。このような食事の時の習慣からも、カナダとの文化や生活の違いを知ることができました。



【3年2組 大塚 和】

カナダでのアクティビティなどを通して、日本とカナダには気候や天気、湿度など多くの違いがあることを知りました。実際に、一番違いを感じたのは湿度です。カナダは夏でも湿度が低いため、唇の乾燥を防ぐリップクリームが必需品でした。カナダから日本に帰り、飛行機から降りたときに、とても蒸し暑く感じました。